



「ひらほく新聞」で検索!

★ホームページ・ひらほくランド★

http://www.hirahoku.com/

☆バックナンバー含め「ひらほく新聞」を閲覧・ダウンロード可能です!

発行所 読売センター平塚北部(ひらほく) 山本 直 〒254-0013 神奈川県平塚市田村9-4-32 電話 0463-54-2807



1,500円+税 お取り寄せ可



以前、ベストセラー作家のひすいたろうさんの書籍から「予祝」のお話をご紹介しました。古来日本人がやってきた夢実現法、そして現代でもまさに有効なその素晴らしい内容をとっても分かりやすくまとめた新著がこの度、『前祝いの法則』というタイトルで発売されました。ひすいたろうさんと夢と希望を伝える講演家、大嶋啓介さんの共著です。恋も受験もスポーツもビジネスも...、願いを叶える最大のコツとは??

### 願いを叶える最大のコツは〇〇ことである。

〜プロローグより〜  
いまから100秒で、「奇跡の起こし方」をお伝えします。なぜ日本人はお花見をするのか?実は、お花見こそ、古代日本人が実践していた、夢(願い)を叶えるための引き寄せの法則だったのです。古代日本人の一番の願いは、稲がたわわに実り、お米がしっかりとれることでした。その願いの実現を引き寄せるためにやっていたのが、実は、お花見だったのです。どういふことか??

とで願いを引き寄せようとしていたのです。これを「予祝」と言い、ちゃんと辞書にも載っています。

古代日本人がやっていた、夢の引き寄せの法則、それが「お花見」だったのです。祝福を予め予定するのです。いわば、「前祝い」です。先に喜び、先に祝うことで、その現実を引き寄せるというの、日本人がやっていた夢の叶え方なんです。盆踊りも予祝です。秋の豊作を喜ぶ前祝いダンスが由来です。

に息を吹きかけ風船を膨らませてください。風船にハートを描き加えたら、そのハートは空気を入れるたびに大きくなっていきます。逆に、風船に小さくXを描いて空気を入れると、そのXが大きくなっていきます。

いま、心の内側に小さなハートを描くことこそ、未来を変える方法だということです。日本のごとく、「始めよければ終わりよし」というのは、現在の心の状態(始め)がよければ、未来(終わり)もよいつて意味なんです。

いま、あなたの内側にハートがあれば、未来においてもハートはドンドン大きく育っていきます。つまり、いまを喜んで生きれば、未来もまた喜びが待っているのです。これが奇跡の起こし方です。

21世紀までは、いいことがあつたら喜びという時代でした。しかし、22世紀は「順番」が違う。いいことなんか、なにもなくても先に喜んでしまう時代です。先に前祝いして、いいことを引き寄せる時代です。

この、「予祝(前祝い)」という、古来日本人が大切にしてきた文化をアップデートさせて、再び、前祝いニッポンの文化を世界に広げていきたい。この「喜びの量」を増やしたいんです。この地球が、喜びに満ちた星になった未来を迎えに行きたいんです。未来の作り方は、とてもシンプルです。いま喜び、いま笑えば、あなたの雰囲気(空気分)は変わり、その瞬間に未来も変わりま

す。願いを叶える最高の秘訣は、先に喜んでしまうことなんです。この星にふさわしいのは、不安ではなく、喜びです。

### 予祝(前祝い)のススメ

いま、喜ぶ。いま喜びに浸る。すると、未来においても喜びがやってきます。「未来」を変える方法とは、「いまの心の状態」を変えることなんです。これが予祝の本質です。有名人たちも無意識に、この予祝を実践しています。たとえば、フィギュアスケートの羽生結弦さん。2014年のソチオリンピックに向かう飛行機の中で、羽生結弦さんは泣いていたのです。イメージのなかで、最高の演技をした感動で泣いていたのです。行きの飛行機で、すでにイメージのなかで金メダルを獲得し、先に喜びに浸っていたのです。だから、実際に金メダルを獲得したときのコメントのなかにこんな発

言があります。「飛行機のなかでイメージしすぎて、飛行機のほうが感動しちゃいました」実際の喜びよりも、イメージのなかでのほうが、もっと喜んでるんです。

### 予祝で、ピンチは「楽しい!」に変わる

予祝を取り入れた、岩手県の釜石商工高等学校の久保田達也監督が、興奮してこんな報告をしにきてくれました。青森山田高等学校という青森県の強豪校と試合をする際に、予祝をしたのだそう。どんな予祝をしたかというところ、どんなふうになったか、チーム皆で先にスコアボードに点をかいたのだそう。 「どんなスコアが面白いかな?最初は負けたほうが盛り上がるよね?」「じゃあ4点くらい、いきなり取られる展開がいいんじゃない?」「たしかにピンチがないと盛り上がりがないよね。それで、最後9回で逆転勝利というワケも満載!教育というワケも満載!教育の現場や企業のみならず、日常のあらゆる場面に効果大、最幸に素晴らしい教え、超オススメの一冊です!

つか、先にスコアボードの得点を決めて予祝をしたのだそう。すると、実際の試合で、いきなり4点取られたんです(笑)。

普通、甲子園常連校相手にいきなり4点取られたら、「さすが強豪!手が出る相手ではなかった」と意気消沈するものです。しかし、このときは違った。「ギター!ギター!ギター!」と4点取られてるにもかかわらず、チームはめっちゃめっちゃ盛り上がったそうです(笑)。

「面白くなってきた」「想定どおり」「ここから行くぜ」と選手たちは、負けるにもかかわらず、ワクワクしてるんです。深刻にならずにむしろ面白がって、ほんとうに逆転勝利しちゃったというのです。

先に困難(ピンチ)を想定する。すると、盛り上がりつつることです。ピンチさえも込みで予祝したら、全部を楽しむことだってできるのです。

ウソのようなホントの話が続出!甲子園出場等の実例の他、「予祝はこうやる」というワークも満載!教育の現場や企業のみならず、日常のあらゆる場面に効果大、最幸に素晴らしい教え、超オススメの一冊です!

# みつばちと

## 地球とわたし

以前、映画「1/4の奇跡」をご紹介しました、自主映画、ドキュメンタリー映画配給のNPO法人ハートオブリミクルより、新たに岩崎靖子監督作品

・ドキュメンタリー映画「みつばちと地球とわたし」ひとつぶの命に秘められた大きな環のおはなし」が公開されます。

みつばちをめぐって今、地球がひとつになる

いま、みつばちが世界中で減っている。原因不明の大量死、謎の集団失踪……。あと10年でみつばちは絶滅するという専門家も……。原因は、環境破壊、電磁波、農薬と言われるが、解決策は見えていない。

そのことと私達に何の関係があるのか？ ぜひ知っていただきたいお話です。

みつばちが一生をかけて集められるはちみつは、テイスプーン1杯。そう、みつばちは、一日3000個の花を飛び回り、受粉し、実を成らせる。私達の食料の、実に70%をみつばちが支えている。それだけではない。森もまた、みつばちの受粉で維持されている。森が死ねば、豊かな養分を

蓄えた川の水が消え、海も死ぬ。

科学技術の発達とともに、人口を爆発的に増やした人類。一方で、ほかの生物は今や一年間に4万種が絶滅していく。森林は半分に、海では魚が激減。大型のものだと、90%が獲りつくされた。

以下、みつばち絶滅の危機を訴える養蜂家、船橋康貴さんのお話です。

『このままだと本当に10年後にスパーに入ったら、野菜も果物も何もない。石油化学品しかなくなる。あなたにぜひ力を貸してほしい。』

①まずは自然に感謝する

②薬品の使用を減らす  
家庭の中にも除草剤とかそういう形でネオニコチノイドとか、問題視されているものが入ってしまっていて、知らずに使っている。うっかり使わない。

③花や緑を植える

みつばちや生き物が喜ぶ花とか木を植えてほしい。種を撒いてほしい。

④買い物に気をつける

人や環境に優しい商品を買う。例えば食品なら原材料名をチェックし、化学物質の少ないものを選ぶ。そういう視点で選択してくれるば、それは自動的に強い投票権でもって頑張っている企業を、そういう意味では

愛のある企業を応援することになるし……』。

私達を支える無数の小さな命、その命に畏敬と感謝の念を持ち、ともに生きていく未来を創りたい。

美しい星「地球」は、あなたが立ち上がるのを待っています。今こそ、その時。

◎2018年7月21日(土)

大田区民ホールアブリコ

大ホール東京初上映イベント開催、7月29日(日)全国

・全世界一斉上映会開催。

ぜひとも多くの方たちに観ていただきたい映画です。

当社ひらほくでもいずれ主催上映会を開催したいと思っています。

|||||

## 一瞬で変わる

今夏の全国高校野球選手権は、第100回記念大会。

ご当地神奈川大会も南北で2校の出場枠をかけ、例年以上の盛り上がり必須です。全国ではすでに地区大会が始まっている地域もありますが、多くの感動をいただけることに心より感謝しています。特に『最後の夏』

観戦、注目していかうと思えます。最後の夏、観戦、注目していかうと思えます。特に『最後の夏』となる選手の方には、全力で悔いのない戦いとなるよう祈ります。

以前にもご紹介させていただいた故郷新潟の公立長岡大手高校の熱血監督、選手たちを心身ともに成長させ、潜在能力を引き出す抜群の指導者、鈴木春樹さん。

先月のそのSNS投稿にとっても感銘をうけました。ご了解のもと、以下に転載させていただきます。

一昨年の長岡大手野球部主将。中学時代から高校に入学して野球部に入部してからも評判が芳しくない生徒だった。そんな彼が高校一年生の冬に弟を白血病で亡くしてしまう。

スキー実習の時に弟の危篤で呼び出され新幹線に乗って新潟へ直行。最後に無言の握手をしたという。弟さんも野球をやっていた。

その握手を通して俺の分まで野球をやってくれ、と頼まれたようだ。彼は感じたようだ。その日を境に見違えるように努力を始めた。

自分だけではない、他の人の分までやる責任が生まれる。それまでいい加減でだらしない無責任だった男がガラッと変わる。そこにはとてつもないパワーを感じざるを得ない。

高校生は本当に変わる。一瞬で変わる。心が通じた瞬間、本当に理解した瞬間、納得した瞬間、音を立てて変わる。そんな瞬間がとても好きだ。(おわり)

## あの「はなちゃんのみそ汁」は

いま……

6月24日、新聞発祥の地横浜のニースパーク(日本新聞博物館)で開催された「全国まわしよみ新聞サミット」に参加。全国の新聞関係者の他、教育関係、出版・書店関係他、多彩な顔ぶれの総勢69名が抽選で4~5名のグループに分かれ、全国130紙から気に入った新聞記事を切り取り、その理由などを順番に語り合い、模造紙に貼り付けて作り上げる「まわしよみ新聞」を体験しました。

(うちのグループが神奈川新聞にカラーで掲載され、ビックリでした！)

初対面なのに共同作業で和気あいあい、共感で盛り上がり、とても有意義な時間でした。今後ぜひ、学校での開催、また、ひらほく塾としても企画、ご案内していきます。

「まわしよみ新聞」は考案者の陸奥賢さんと出会った3年前の体験時にここにご紹介しましたが、今回は、全国サミットということ

で、陸奥さんの他に、ずっと活動を継続して広めてこられた福岡県福津市で地域再生活動などをされている山口寛さん、西日本新聞社の編集委員・安武信吾さん

も参加、第2部の「新聞の可能性と将来」意見交換会の進行役をされました。

そして、懇親会で驚きのご紹介が！それは、安武さんが、あの「はなちゃんのみそ汁」のまさに著者ご本人だということでした。

「はなちゃんのみそ汁」は、がん闘病中の妻と幼い娘はなちゃんとの暮らしを綴ったノンフィクション。

2016年には広末涼子さんが主演を務める映画にもなり、話題となりました。

あの、安武はなさんは現在、15歳。そしてこの春より西日本新聞にて、父である編集委員・安武信吾さんとの暮らしや人との出会いで感じたことに触れながら得意料理を紹介するコーナー「15歳のレシピ・はなちゃんの台所」をスタート。

連載にあたり、はなさんは次のように語っています。

私は10年前に母をがんで亡くしました。母は闘病中、4歳の私を台所に立たせました。初めて覚えた料理は、みそ汁でした。母が他界した後、朝食のみそ汁作りは私の仕事でしたが、中学3年の夏から父が1人で朝食を用意してくれるようになりました。入試を控えていた私への配慮だと思えます。ところが、昨冬、父は風邪をこじらせ、

寝込んでしまいました。それでも朝、台所に立とうとする父の姿があまりにも痛々しかったので、代わって私が朝食を作りました。

父は食卓に並んだ料理の前で涙ぐんでいました。母がなぜ、幼い私に料理を教えたのか。その意味が分かったような気がしました。

料理は栄養だけではなく、他者を思うメッセージが込められています。それを受け止めてもらえたとき、私はとても幸せな気持ちになります。幸せを多くの子どもたちに感じてほしい。そんな思いから、食を教育の柱に据える中村学園大の大部正代先生の指導で料理の記事を書くことになりました。私を支えてくれた人との思い出を交えながら、とっておきのレシピを紹介いたします。(終わり)

|||||

感動の共感で つながる広がる 輝く日本の未来

おかげさまをもちまして、この「ひらほく新聞」も継続9年目に突入しました。少し大げさになりますが、日本の未来のために、ほんの一人でも心に火が灯り、広がってくれたら有難く思います。今後ともよろしくお願いたします。